

文化財を訪ねて 54

みやまかまあと  
出土した須恵器

宮山窯跡は、豊中町の七宝山トンネルの手前にある須恵器を焼いた窯跡です。(平成23年広報みとよ9月号で紹介) 今回は、そこで出土した須恵器について紹介します。この須恵器を造る技術は、西暦400年ごろに朝鮮半島から伝わった技術でした。それまでの日本の器は、野焼きに近い形で焼いていました。これでは温度が低いため、硬い器は焼けず、水を入れてもジワリと漏れてしまいました。

一方、須恵器は窯で焼くため、温度は1000度を超え、非常に硬く保水性に優れた器でした。須恵器の技術は、朝鮮半島から政治的中心地であった大阪に伝わり、そこから全国に広がったといわれ、伝来を示すかのように、瀬戸内海に面する地域には古い須恵器を焼いた窯が点在しています。宮山窯跡もこうした古い窯跡のひとつです。実は先月紹介した大塚古墳



▲和歌山県で展示予定の須恵器

から、宮山窯跡の須恵器とよく似た遺物が出土しました。須恵器は日常の器でしたが、故人とともに埋葬される道具でもありました。つまり、宮山窯跡と大塚古墳は、実は関連する遺跡であった可能性があり、調査を行うことで、少しずつではありますが、古墳時代の三豊市の様子がわかり始めてきています。

10月4日から12月7日の間、「和歌山県立紀伊風土記の丘」で、西日本の古い時期の須恵器を一堂に集めた特別展示が開催され、三豊市の宮山窯跡から出土した須恵器も展示されます。遠い所ですが、和歌山県にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。また、整理が終われば市内で宮山窯跡と大塚古墳から出土した遺物の展示も計画中です。

▼問い合わせ  
生涯学習課 ☎62・1113

栗島アーティスト・イン・レジデンス 2014 成果発表会 開催

栗島に開校した日比野笑学校。島民とともに制作活動を行っている2人のアーティストの作品を展示します。

日時 10月18日(土)～26日(日)  
場所 日比野笑学校(旧栗島中学校)  
▶問い合わせ 産業政策課 ☎73-3013

岩田とも子 さん

学校を船の上に見立て、季節を航海する自然観察船のプロジェクトを進めています。島の自然物の採集と展示、それらを素材とする制作も行います。



松田 唯 さん

島内で注文を募り、依頼者のエピソードをもとに制作する染物店を展開します。



駅からウォーク

話題の漂流郵便局を巡る秋の栗島探索

話題の漂流郵便局をはじめ、秋の栗島を探索。海洋記念館、城ノ山、西浜、馬越海岸、ブイブイガーデンなど、栗島の魅力に触れる自由探索時間あり！この季節、定期船からスナメリが見えるかも！



日時 11月8日(土) JR詫間駅に9:00集合  
コース (歩行距離約9.3km)  
詫間駅(9:00) → 須田 船 栗島 → 漂流郵便局・(昼食) 自由探索 → ブイブイガーデン → 上新田 船 宮ノ下 → 詫間駅(16:40頃)  
定員 30人(先着順) 参加料 1,000円(船賃、保険料ほか) 申し込み期限 11月5日(水)

▶問い合わせ 市観光協会 ☎56-5880

日比野克彦ワークショップ

出張!ソコソコ想像所『昔むかしあるところに...』

瀬戸内海底探査船美術館「一昨日丸」で葛島に渡って、海底から引き揚げたものを見て想像しながらスケッチして、物語を作ろう。また、仁尾の海産物をふんだんに使った海賊カレーも作ります。どんな味になるかは、できてからの楽しみ。

日時 11月2日(日) 9:30~12:00  
場所 葛島 ※仁尾港つたじま渡船乗り場に9:30集合  
定員 30人 参加料 500円  
申し込み締切日 10月24日(金)

▶申し込み・問い合わせ  
三豊コンシェルジュセンター ☎24-9230



出張!ソコソコ想像所 海底から引き揚げたものに想いを巡らせる「ソコソコ想像所」。いつもは栗島海洋記念館で開催していますが、今回、仁尾町文化会館に出張コーナーを開設しました。

みとよ暮らし みとよ時間



▲「畑で季節の野菜や果物を育てていきたい」と大石さんご家族

三豊市への移住・定住ポータルサイト  
みとよ暮らし手帳

市では空き家バンクの登録物件を随時募集しています。現在の契約数は約60件です。  
▼問い合わせ  
田園都市推進課 ☎73・3011

6月末に横浜市から移住し、みとよ暮らしを始めた大石昇治さん(45)、秀子さん(38)、弦汰さん(5)に話を聞きました。  
「移住を考え始め、空き家バンクで住む家を探しました。三豊の空き家バンク情報は見やすくよかったですよ。見ているうちに、畑も付いている今の家にたどり着いたというかんじです。リフォーム補助金の制度もあり、床や水廻りを直す助けになりましたね。こちらの皆さんは本当に優しい。不動産屋さん、あいさつ回りに一緒に行ってくれて『頼むで〜』と言ってくれたり、農機具を貸してくれて一緒に畑の土をおこしてくれたりしてすごく心強かったです。」

また、庭で友達とバーベキューをしていた時には、家の前を通った方が、スイカとカボチャを『皆で食べ〜』とくださって、本当、衝撃的な嬉しさでした(笑)。移住者にとっては、知らない土地に来て、『受け入れてもらえるかどうか』は不安な点でもありまうから、なおさらです。  
台所から見える山から、毎朝上る太陽の位置が、季節によって移っていくのを感じたり、畑で土を触ったり、流れ星を見たり、子どもが家で大声を出してもむやみに怒らなくてよかったり(笑)。そんなときに、都会では出会えない『みとよ時間』を感じます。ここ三豊で、家族でいろいろなことを楽しみながら過ごしていきたいですね。」